

令和2年度 島根県立農林大学校の取り組みと学校評価

●教育の目的
「次代の島根県の農林業をリードする農業者及び林業技術者の養成」

●基本方針

- ・ 高度な農林業技術と専門的知識を習得し、経営管理能力を養う。
- ・ 広い視野に立って農林業を考え、技術革新、経営改善に積極的に取り組み、新しい農林業を創造する能力を養う。
- ・ 先見性を持って流動的な社会情勢に対応するための分析力、判断力、行動力を養う。
- ・ 農林業生産及び農山村社会におけるリーダーとして必要な指導力、企画力、調整力を養う。

●重点目標

- ①意欲ある学生の確保
- ②教育内容の充実・強化と実践力の養成
- ③進路指導の充実と進路意識の高揚

1 意欲ある学生の確保

(1) 取り組みの概要

【入学者数の推移】

年度	農業科						林業科			合計		
	2年課程					1年課程	計	2年課程	1年課程		計	
	有機農業	野菜	花き	果樹	肉用牛	小計		短期養成	小計			早期養成
H30	9	4	1	3	6	23		23	10		10	33
R1	7	9	4	3	7	30		30	11		11	41
R2	10	9	3	7	3	32	9	41	8	6	14	55
R3	8	9		5	9	31	14	45	16		16	61

■本年度から、定員を農業科は30名から40名に、林業科は10名から20名に増員した。

■本年度から1年課程の短期農業経営者養成科（定員5名 R2.10から農業科短期養成コースに改称）を設置し、7名の第1期生が入学した。

■本年度、1年課程の10月入学生を募集し、農業科短期養成コース2名、林業科早期養成コース6名の入学があった。また、定員を1・2年課程併せて、農業科45名、林業科20名とした。

■オープンキャンパス「緑の学園」、高校生の体験学習受入、県内・県外の高校訪問、高校進路ガイダンスへの参加、ホームページ・フェイスブックの活用などの取り組みを行い、意欲ある学生の確保に努めた。

■R3年度入学者数（入学試験合格者数）は、農業科2年課程31名＋短期養成コース14名＝45名で定員の45名丁度となった。林業科は2年課程16名で定員の8割となった。

■R3年度入学者（入学試験合格者）のうち、農業科2年課程では17名（51%）、短期養成コースでは全員が卒業後、自営就農又は雇用経由自営就農を目指している。

■林業科は全員が林業事業体への就業を目指している。

(2) 具体的取り組みと評価・課題

評価 A：達成した B：概ね達成した C：やや達成していない D：達成していない

区分	前年度	今年度の取組状況	評価	来年度の課題	評価コメント（外部評価委員）
オープンキャンパス	4回 60名参加	<ul style="list-style-type: none"> ■8月16日(日)、22日(土)、29日(土)、9月5日(土)の4回開催し、高校3年生40名、社会人等16名の計56名の参加があった。 ■コロナ対策のため、地区別に開催し、各回毎の参加人数の平準化を図った。 	A	【共通】 コロナ禍でのオープンキャンパス、体験学習受入、高校訪問等学生募集イベントの効果的実施	<ul style="list-style-type: none"> ■短期コースのニーズが高いように思われるが、増枠については2年課程とのバランスを考慮して検討することが必要。 ■「来てもらう」、「出かける」いずれも物理的にできることには限界があり、対象者分野ごとのインパクトある内容とする工夫が必要と考えます。関心を持った方はホームページ等からの情報収集をされるのが想定されますので、その観点からの対策を強化すべきと考えます。 ■オンラインでのオープンキャンパスやYoutubeを利用した対策は実施していないのですか？
来てもらう 体験学習受入	11校 295名参加	<ul style="list-style-type: none"> ■農業科は、3校のみ、85名の受け入れに止まった。農業科説明・PRと各専攻での実習を行った。 ■林業科は、7校（延べ9校）、179名を受け入れた。林業科説明・PR、林業機械操作体験、在校生との交流を行った。 ■合計 12校、264名参加 	B		<ul style="list-style-type: none"> ■コロナ禍でも積極的に事業を実施され、参加者もあり効果はあったと思われる。 ■コロナ禍で県外へ出てしまうと戻るときに戻りにくくなるので、これを逆にとり県内での進学（雇用就農）に進めるいいきっかけになるのでは。 ■コロナの影響でいろんな職種が打撃を受けている中、農林業に興味をもってくれる若者が増えたように感じます。たくさんの方にオープンキャンパスや体験学習を受けていただいたようで、入学者が増加してくれるといいなと思います。 ■体験学習の受入を積極的に行ってほしい（特に県内農林高校）。 ■イベント開催大変だと思いますが、農大の魅力を十分にPRしてほしいと思います。 ■コロナ禍の中、事業を中止するのではなく、感染防止策を行いながら取り組みを進められたことは評価します。 ■実績については評価できる。これにより何名が入校されたかが本当の評価になると思う。

区分		前年度	今年度の取組状況	評価	来年度の課題	評価コメント（外部評価委員）
出かける	県内高校訪問	5回	<p>【第1回】6月 県内49高校、市町村、J A、森林組合、県農林振興センター等合計105機関を訪問</p> <p>【第2回】9月 オープンキャンパス参加者高校を中心に24校を訪問</p> <p>【第3回】12月 普通高校を中心に30校を訪問</p>	A	<p>【農業】</p> <p>農業高校との連携強化による自営就農を目指す学生の確保</p> <p>農業高校3年＋農林大学校2年＝5年間で地域農業を担う人材育成の機運醸成</p>	<p>■コロナ禍でもあり当面は中止等があるのはやむを得ない。</p> <p>■農業の基礎をしっかり学んだ上でいかに農業を続けていけるのかを説明して途中で挫折することのないように支援する必要がある。</p> <p>■コロナ禍で訪問するにも対策等大変だったと思います。県内外を問わずこのままPRを継続していただきたいです。</p> <p>■自営就農及び雇用就農希望者を対象に、県内大型農家での研修を春・秋の農繁期に実施してほしい。</p> <p>■県内集落営農組織は高齢化のため経営存続が厳しい。林業を含めて後継者育成に努めてほしい。</p> <p>■地域の行事にも参加すると幅広く農大のPRになるのではないかと思います。</p> <p>■県外高校訪問はコロナ禍により難しいと思う。ZOOMを使った意見交換等も検討してはどうか。</p> <p>■コロナ禍の中、事業を中止するのではなく、感染防止策を行いながら取り組みを進められたことは評価します。</p> <p>■県外高校について、コロナ禍ではあるが引き続き頑張してほしい。</p>
	県外高校訪問	4県 25校	<p>■林業科学生募集を主目的に、中国地方4県、22校を訪問</p> <p>■東京・大阪事務所に依頼し、東京4校、大阪・兵庫3校を訪問</p>	C		
	高校進路ガイダンス	12校 173名	<p>■延べ12校、147名に①島根県立農林大学校の魅力、②農業の魅力、③林業の魅力をPR</p>	C		
	農業高校連携	12校 173名	<p>■地区農業高校連携推進会議への出席</p> <p>■松江（松江農林）、出雲（出雲農林）、邑南（矢上）、大田（瀬摩）、益田（益田翔陽）</p>	B		
	県外就農相談会	9回	<p>■コロナ禍により不参加（開催中止等）</p>	D		
ホームページ・フェイスブック等	農林大学校の動き：毎月FB投稿：70件	<p>■毎月、「農林大学校の動き」をとりまとめ、学生の活動状況・行事などを簡潔にまとめて発信。農林大HPに掲載し、農業法人協会、県内全高校、各地域農業再生協議会へメール送信</p> <p>■農林大公式フェイスブックで随時農林大情報を発信（年間50件投稿）</p> <p>■農業科では、県政テレビ番組「もっとなるほど！吉田くんのしまねゼミ」でのPR等を実施</p> <p>■林業科では、人気お笑いコンビ「かまいたち」を島根県林業PR大使に任命し、かまいたちの林業対決を通じたPR動画4本を8月に配信(再生回数：35万2千回)。この結果、農林大林業科HPへのアクセス件数が9月23,326、10月37,113と飛躍的に増加(7月まで月平均アクセス数 500程度)</p>	B	<p>【林業】</p> <p>高校生等の森林・林業に関する関心や興味を深める林業体験学習の効果的な実施、SNS等を活用した積極的な情報発信による学生の確保</p>	<p>■非常に重要な役割を担っている分野と考えます。「学びの内容」や「学生生活」を生情報として伝えることが重要です。近年、林業科を除いては情報発信が滞っており不十分であると感じています。単なる「お知らせ」に終わることのない情報の発信に努力されたい。</p> <p>■林業科のPR動画作成に対し人気のある「かまいたち」の活用は良かった。多くの人に見て、知ってもらうことができたのではないかと思います。林業に興味を持つ人が増えていけばよいと思う。</p> <p>■HP・FBは時々拝見しています。とてもわかりやすく私が学びに行きたくなるくらいです。かまいたちさんのPR大使はとてもいいことだと思います。林業だけでなく農業の方でもお願いしたいです。</p> <p>■FBは見たことがなかったのでチェックしてみようと思います。</p> <p>■今後も効果的な情報発信を心がけてほしい。</p> <p>■引き続きSNSを最大限活用して情報発信してください。</p> <p>■「かまいたち」効果を活かし引き続きPRに努めてほしい。</p>	

2 教育内容の充実・強化と実践力の養成

(1) 取り組みの概要

【令和2年度学生の状況】

学年	農業科						林業科	合計	
	有機	野菜	花き	果樹	肉用牛	小計			
2年課程	1年	9	9	3	7	3	31	8	39
	2年	6	9	4	3	6	28	11	39
1年課程		1	4	1	2	1	9	6	15
計		16	22	8	12	10	68	25	93

■農業科（2年課程）では、専攻共通・専攻専門科目の講義・演習と専攻実習、先進農林業者等体験学習、必要な資格免許取得等を行い、実践力の養成に努めた。

■林業科（2年課程）では、専門科目の講義・演習と専攻実習、先進農林業者等体験学習、必要な免許資格を取得し、就業後に即戦力として活躍できる技能の養成に努めた。

■今年度新設した農業科短期養成コース9名は、カスタム型のカリキュラムを作成し、基礎講義、特別集中講義、専攻実習、資格免許取得、就農予定地研修等に取り組んだ。

■今年度新設した林業科早期養成コース6名は、林業就業に必要な免許・資格の取得、機械操作等の実習を中心としたカリキュラムにより、最低限必要な技能が修得できるよう取り組んだ

■研修部門は、農業科では、新たに農業経営初心者・農業体験研修生等を対象に「農業入門実践研修」「特別集中講義」を開講し、多くの受講者があった。林業科では、林業事業者の既就業者を対象とした「簡易架線作業技術研修」「林業架線作業技術研修(応用コース)」を開催し、10名の受講者があった。

■「しまねの農林業体験教員研修」は高校・中学校・小学校・特別支援学校の先生84が受講し、農林大学のPRに努めた。

■必要な資格免許取得の推進、コロナ禍での学生指導、高度な農林業技術に対応した教育環境の整備に努めた。

(2) 具体的取り組みと評価・課題

評価 A：達成した B：概ね達成した C：やや達成していない D：達成していない

区分	今年度の取組状況	評価	来年度の課題	評価コメント（外部評価委員）
養成部門 2年課程 農業科	基礎学力	A	【農業科】 ■R3の2年生から卒業後即自営就農する学生、雇用就農を数年間経て自営就農を目指す学生を対象に「就農準備コース」を新設する。特別集中講義の受講、地域農業再生協議会とのマッチング、経営計画の策定等を行い、在学中から就農準備を進める。	■基礎学力は他の教科を学ぶにあたって必須だと思えるので学力向上を目指してほしいです。 ■非常に良いことだと思います。できたら1年生から班別にしてはかがかかと思えます。 ■引き続き基礎学力の習得を強化してください。
	有機農専攻	A	■サテライト校等の協力を得ての有機農業に関する視察（4回）、講義の実施（4回）、有機農業に関する研修会への参加（リモート、2回） ■新設ハウス（2棟）での野菜栽培（果菜・葉物野菜） ■スマート農業機械（水田除草機、ロボットトラクター）の導入と研修会実施	■スマート農業・林業への対応は必要だが、できるだけ安価な機材で導入できることが望ましい。研修もそうした点を考慮してほしい。 ■地域農業者と連携して進められていることに可能性と期待を感じています。就業後のモチベーション維持のため、世界の農林業情勢と、その中での日本農林業の位置付けについての概論をカリキュラムの中に入れていただきたい。夢を持つと同時に厳しい現実の中で目標に突き進んでいく覚悟も必要だと思います。
	野菜専攻	A	■学生が主体的に養液で栽培する品目を決め、計画作成、栽培、出荷等を行った。学習内容が偏らないよう担当品目以外についても幅広く実習を行った。機械作業やハウス修繕等も、できる範囲で行った。 ■4棟の鉄骨ハウス解体(8棟の強化型パイプハウス新設)等で学習環境が厳しい中、効率的なほ場利用を心掛けた。果実的野菜の直売やJA経由イオン大田店での販売を通じ、収入予算も十分確保した。	■就農準備コースの開設は学生の要望に沿ったもので良いと思う。卒業後自営又は雇用経由自営就農を目指している人が多いので、卒業後も気軽に相談できる場であったり、意見交換のできる場へ発展していけば就農者の拠り所となると思う。 ■農大の間にGAP等の取り組みをすれば就農後のGAP取得に役立ち準備ができるので良いと思う。
	花き専攻	A	■班編成（切り花班・鉢花班）を基軸にした実習管理体制として、チームとして効率的な管理方法を考えながら実習にあたるよう促している。 ■花き栽培はもちろん農業全般の基礎知識の習得・定着を図るため、専攻学生全員で日本農業技術検定（1～3級）を受験。検定合格という目標を明確しながら専攻の講義にあたっている。 ■フラワー装飾技能検定2級1名、3級2名。	■有機野菜は消費者からも多く求められています。販売価格の差別化がもっとあってもいいと思います。有機野菜を作ってどう売るか、経営の勉強も必要ですね。 ■野菜、花き、果樹も施設を整えて栽培しなければなりません。そのノウハウが十分に学べる環境であることがとても素晴らしいと思います。
	果樹専攻	A	■就農後必要になる現場での実践技術の習得に重点を置き、ぶどうを中心とした樹種の栽培管理技術及びハウスや果樹棚等施設の修繕技術の習得を図った。また、今年度からシャインマスカットの生産出荷については、「大田市ぶどう生産組合」に加入、所属した取り組みを開始し、全県共販出荷の技術習得にも力を入れ、就農後の経営に即座に役立つ実習とした。GAPの取り組みも美味しまねゴールドの実践を継続している。	■技術検定やGAPの取り組み等もしっかり学べる、がんばれる環境なのでこのまま学生さん達にはしっかりと身につけていただきたいです。 ■来年度から新設される就農準備コースもやる気のある若い人たちにとってはとても心強いものになると思います。1ターンで0からのスタートだと本当に不安でどこにアドバイスを求めればいいのかもわからない人も多数います。農業に対する意欲を失わないようにするためにも基礎から経営までしっかり学び、卒業後すぐにスタートできることで農業を目指す人が増えてくれることを望みます。
肉用牛専攻	A	■学生に肉用牛飼育管理の基礎技術を習得させるとともに、子牛の発育成績や肥育牛の枝肉成績を分析、評価させ、飼育管理体制の改善に向けた手法をチームワークとして実践した。 ■就業に要する各種資格の取得を進め、特に、削蹄師養成講習会や家畜人工授精師養成講習会に向けた事前実習を重点的に行った ■1年次3月の三者面談を基に、学生との面談の機会を増やし学生の希望する雇用就農・就業先での短期間のインターンシップや2年次9月の体験学習につなげている。 ■地域農業者との連携で不作付水田の有効利用として2カ所、ならびに集落内の景観保全として1カ所、牛の放牧活用を実践した。	■インターネット販売、量販店での販売実習、6次産業化など新たなカリキュラムを検討する。 ■肉用牛の農家数は年中休みがなく大変なイメージがあり減少していると聞きます。島根和牛のブランドを絶やさないためにももっとPRが必要なのかなと思います。 ■各自日記の記帳を心がけさせた方がよい（例えば、3年・5年日記で天気・気温・作物の生育等記帳） ■農業技術検定は全学生を対象に受験させればどうか。 ■県内の優秀な若手農業者を講師としてお願いされた方がよいと思います。 ■各学科充実した内容の学習ができています。 ■有機・果樹専攻の学生さんには、市役所内で「販売実習」を行ってもらい非常に好評だった。次年度もお願いしたい。	

区分		今年度の取組状況	評価	来年度の課題	評価コメント（外部評価委員）
養成部門	2年課程	<ul style="list-style-type: none"> ■「島根県農林水産基本計画」の推進内容を踏まえ、「伐木技術」「採材技術」「スマート林業」の科目を新設し、実習の実施と合わせ木材生産分野に関する技能習得を強化。また、「経営実践」「事業体経営」「事業体管理」の科目を新設し、事業体の経営管理等に関する理解を深めるよう努めた。 ■従来、2年次のみ実施していた「先進農林業者等体験学習」を1年次にも実施(3日間)し、林業事業体での就業体験等を拡充強化。 	A	【林業科】 <ul style="list-style-type: none"> ■伐倒練習機や高性能林業機械を使用した実習時間を増加させたが、保有機材が限られていることから、実習効果を確保するため、複数の機材を組合せなどの工夫を行うことが必要 	<ul style="list-style-type: none"> ■林業に興味があるという知り合いのお子さんが林業科に進学されると聞きました。小学校の時に受けた山を守る講習がきっかけだったそうです。山を手入れすることで災害が起こらないようになる、国産の良質な木を活用してもらうのが目標だそうです。幼い頃からの夢を実現するのだと張り切っているそうです。林業のPRの成功例ですね。
	農業科短期養成コース	<ul style="list-style-type: none"> ■4月入学7名、10月入学2名 合計9名 ■9名が就農ビジョンに合わせたカスタム型のカリキュラムを作成し、基礎講義、特別集中講義、専攻実習、資格免許取得、就農予定地研修等に取り組んだ。 ■4月入学の7名は自身の農業経営計画を策定し、営農ビジョンを発表 	A		<ul style="list-style-type: none"> ■新たなコースですが、学生からはどのような意見がでているのでしょうか？（特に、不満や要望）左記の取り組み状況は、コースを設置しカリキュラムを計画通り実施したという意味ではA評価ですが、学生の評価や来年度の課題が具体化されていない中でのA評価には違和感を感じます。 ■U・Iターンの方達が学びやすい環境なのかなと思います。0から始める方が1年で資格も取得できるカリキュラムが作成できることが魅力です。
	林業科早期育成コース	<ul style="list-style-type: none"> ■10月入学6名 ■林業就業に必要な免許・資格の取得、機械操作等の実習を中心としたカリキュラムにより、最低限必要な技能が修得できるよう取り組んだ。 	A		
研修部門	農業入門実践研修	<ul style="list-style-type: none"> ■農業経営初心者、地域おこし協力隊、農業体験研修生、福祉事業所等職員などを対象に、6月～2月まで15回程度開催 ■有機農業6名、野菜5名、果樹8名の合計19名に修了証を交付し、うち果樹6名がR3短期養成コースへ入学する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ■定員増のため「農業入門実践研修」は休止とする。 	<ul style="list-style-type: none"> ■様々な工夫に対して評価します。将来の方向として「緑の食料システム」を意識した内容がより求められるのではないかな。 ■小学校、中学校の教員研修は実際、小学生、中学生に農業の大切さを伝えてもらう、農業者を増やすきっかけになるよう期待したい。 ■学びたいことを短期集中で学べるので仕事をしながらでも受講できることが魅力です。もっとPRをしてたくさんの方に受講していただきたいです。簿記に関しては毎年の申告で必ず必要なので自営する方にとってはとても重要な科目だと思います。
	特別集中講義	<ul style="list-style-type: none"> ■農業科短期養成コース9名、自営就農を目指す2年生9名、一般公募延べ53名の合計71名が受講 ■県内外のスペシャリストを講師に、「農業経営者入門」「マーケティング」「農業簿記入門」「農業簿記発展」「マネジメントスキル」「農業基礎知識」「経営革新」の7部門、31回の講義を実施 	A	<ul style="list-style-type: none"> ■「しまねの農林業体験教員研修」は本校の魅力を教員に伝える貴重な場であるので効果的な開催方法を検討する。 	
	林業エンジニア研修	<ul style="list-style-type: none"> ■林業事業体職員を対象とした「林業架線作業技術研修(応用コース)：2日間」「簡易架線集材技術研修：7日間」を実施し、それぞれ10名と5名(計15名)が受講 (「林業架線作業研修(基礎コース)」は、コロナ禍のため中止した) 	B		
	しまねの農林業体験教員研修	<ul style="list-style-type: none"> ■コロナ禍の中、体験型の他の教員研修が開催されず、受講者が殺到。高校24名、中学校26名、小学校22名、特別支援学校12名の計84名が受講 ■8/24～25、8/18～19の2回開催 ■「島根県の農林業を知る・農林大学校を知る」「島根県の生産者の声を聞く」「体験学習」を行い、高評価。農林大学校のPRになった。 	A		
資格取得	農業科	<ul style="list-style-type: none"> ■大特、けん引、フォークリフトなど農業に必要な各種資格の取得を進めた。事前練習を重点的に行った。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ■引き続き必要な資格免許取得の推進、コロナ禍での学生指導に努める 	<ul style="list-style-type: none"> ■各料資格取得の中に「ドローン」操縦を加えてほしい。 ■作業をする上で必要な資格が取得できるように努力されていて良いと思います。
	林業科	<ul style="list-style-type: none"> ■林業就業に必要な資格が取得できるようカリキュラムを組んで実施。また、習熟度を高めるため、専攻実習において伐木技術や機械操作等の技能向上を図った。 	A		
学生指導	共通	<ul style="list-style-type: none"> ■コロナ禍に対応するため、学生自治会とも連携し、基本的感染防止対策（①身体的距離の確保、②マスクの着用、③手洗い）の徹底はもとより、体温測定と健康観察、適切な寮・私生活の確保など感染防止対策の徹底を図った。 ■日頃から交通・生活安全の注意喚起を行い、交通事故2件(R1:4件)、実習中の事故0件(R1:7件)と事故数減少 	A		<ul style="list-style-type: none"> ■社会ではコミュニケーション能力の有無がその人の人生を左右します。多様性を尊重し、なおかつ自分の意見を持ってそれを伝えることの大切さを学習していただきたい。 ■交通安全の研修を強化してください。 ■今年はコロナの影響で行事も中止や縮小で本当に大変だったと思います。対策の徹底により感染者が0！素晴らしいです。事故に関しては一人一人が気を付けないといけないことです。 ■感染防止対策は今後も気を付けていただきたい。
教育環境	農業科	<ul style="list-style-type: none"> ■有機専攻：GPSトラクター・畦塗機・サブソイラー、水田除草機、リモコン草刈機整備 ■野菜専攻：鉄骨ハウス解体1棟・パイプハウス建設2棟 ■果樹専攻：2号ハウス環境制御設備 ■コロナ禍に対応したオンライン講義 ■定員増に対応し、清友寮3室、友波寮2室、合計5室を新設 	A	【農業科】 <ul style="list-style-type: none"> ■定員増に対応した教育環境整備はひとまず終了 【林業科】 <ul style="list-style-type: none"> ■定員増に対応した教育備品の整備が引き続き必要 	<ul style="list-style-type: none"> ■羨ましいほど設備が整えられています。 ■スマート農業に対応することは重要だと思う。
	林業科	<ul style="list-style-type: none"> ■定員増に対応し、学生寮拡充（「来島寮」新設16室） ■高性能林業機械格納庫整備（1棟：ハーベスタ等3台格納） ■教育備品整備(ドローン1台)、人員輸送車両整備(10人乗り1台) 	A		

3 進路指導の充実と進路意識の高揚

(1) 取り組みの概要

【令和2年度就農・就業、就職状況】

区分	就農		林業 就業	団体	公共 機関	関連 産業	他産 業等	研修	合計
	自営	雇用							
農業科	有機農業		5		1				6
	野菜	1	2		2		3	1	9
	花き		1		1			2	4
	果樹		2		1				3
	肉用牛		4					1	5
	小計	1	14	0	5	0	3	4	0
林業科			11						11
合計	1	14	11	5	0	3	4	0	38

【近年の就農・就業状況】

年度	農業科			林業科			合計		
	学生数	就農者	就農率	学生数	就農者	就業率	学生数	就農・就業者	就農・就業率
H29	17	14	82%	8	8	100%	25	22	88%
H30	33	17	52%	7	7	100%	40	24	60%
R1	21	13	62%	9	8	89%	30	21	70%
R2	27	15	56%	11	11	100%	38	26	68%

■農業科（2年課程）は、自営就農1名、雇用就農14名の15名が就農し、就農率56%となった。雇用就農のうち4名は数年後に自営就農する意向である。

■農業科短期養成コース4月入学の7名は、4名が自営就農、3名が雇用就農で数年後に自営就農する意向である。

■林業科（2年課程）は、11名全員が林業事業体や森林組合への就業で、就業率は100%となった。

(2) 具体的取り組みと評価・課題

評価 A：達成した B：概ね達成した C：やや達成していない D：達成していない

区分	今年度の取組状況	評価	来年度の課題	評価コメント（外部評価委員）
関係団体との連携による就農・就業支援	共通 ■入学時、1年終了前に三者面談を実施。学生との面談を普段から実施し、学生の希望する就農・就業先での短期インターン研修、2年9月の先進農林業等体験学習に繋げている。 ■6/26就農ガイダンスを開催し、42名の学生が参加。市町村・JA・農業普及部で構成する14の地域農業再生協議会から地域の担い手の状況や支援策等について学生への説明・意見交換を実施。 ■JAしまね石見銀山青年連盟視察（6/22 1年生31名）、松江地域農業発見交流会（7/22 11名学生参加）、雲南市農場視察研修（8/19 中止 15名学生参加予定）、益田市の若手プロ農家との意見交換会（1/18 14名学生参加）など、現場で活躍している農業者との交流の場が拡大。	A	【農業科】 ■地域農業再生協議会、農業士会、農業法人協会、JA農青連、地域の農業者組織等との連携を強化し、卒業後の自営就農、雇用就農後自営を推進する	■活躍している若手農家との交流は良いと思う。交流会や視察研修に行った際ただカリキュラムの一環で参加しただけなどといった反応の学生もいるので、本気で農業をしている人には悪印象を与えてしまうこともある。 ■JAや農家との交流や説明会等があり目標を実現しやすくなっていると思います。いろんな方に話を聞いて、いい事も大変な事も聞いた上で就農してもらいたいです。何年作っても100点満点の年はないの…で。 ■地域との交流は全普及部単位で実施した方が良いと思います（各農林高校生で意欲のある生徒も含めて） ■卒業後も就農の道へ進んでいて素晴らしいと思う。 ■卒業後の就職・就農に必要なコミュニケーション能力の向上も考えてみたらどうだろうか。 ■各市町村の農業担い手担当に対して、農林大学校の情報提供（意見交換）の場を設けてはどうでしょうか。 ■就農ガイダンスについて、学生からの希望で自治体等へ依頼するのではなく、自治体から説明したい場合もあるので各自治体への意向調査をかけてほしい。飯南町の場合、就労の決まっていない方に町内の空きハウスを利用いただけるものがあるので説明させていただく場があると良いです。 ■林業事業体や市町村との意見交換の場を設けることは、学生・事業体・市町村にとって意義が大きいことと考える。さらなる充実をお願いしたい。
	農業科 ■7/14・20、県内林業事業体合同説明会を開催し、1年生6名、2年生11名が参加。各事業体の業務内容等を計20社から説明を受けるなど、就職先等の選定に向けた情報収集の場とした ■8/20、大田市（市長・森林組合長）、美郷町（町長・林業担当課長）との意見交換会にそれぞれ1年生8名・2年生11名が参加。各市町の林業振興対策・定住支援策等の説明と林業の若い担い手に対する熱いエールを受けた ■2/5、島根県林業労働力確保支援センター主催の就職ガイダンス（18事業体来場）に1年生6名が参加。先進農林業者等体験学習や就職先選定の参考とするため情報収集を行った	A	【林業科】 ■林業労働力確保支援センター等との連携を継続し、卒業生への情報提供等の県内林業事業体への就業を促進する	
	林業科 ■7/14・20、県内林業事業体合同説明会を開催し、1年生6名、2年生11名が参加。各事業体の業務内容等を計20社から説明を受けるなど、就職先等の選定に向けた情報収集の場とした ■8/20、大田市（市長・森林組合長）、美郷町（町長・林業担当課長）との意見交換会にそれぞれ1年生8名・2年生11名が参加。各市町の林業振興対策・定住支援策等の説明と林業の若い担い手に対する熱いエールを受けた ■2/5、島根県林業労働力確保支援センター主催の就職ガイダンス（18事業体来場）に1年生6名が参加。先進農林業者等体験学習や就職先選定の参考とするため情報収集を行った	A		
無料職業紹介事業の実施	■就職セミナーの開催（2/17 1年生） ■本校への直接求人数65社（R1：71社） ■事業所・法人等求人意向調査情報活用（県庁・公社等との連携）	A		
インターン研修等の実施	■求人意向調査等により雇用意向のある経営体へ、雇用可否の判断とするため短期インターンシップを実施	B		

4 総括的意見・コメント

■コロナ禍ですが感染対策に努められ、学生・職員とも一人の陽性者もなかったこと本当に良かったと思います。努力に対し敬意を表します。まだ収束にはほど遠い状態であり大変ですが、引き続き感染対策に留意され、元気で学校生活が送れるよう祈っています。

■評価シートに今年度の取組状況が記載され詳しく様子を知ることができました。コロナ禍ではありますが、多くの教育活動を実施されていることに敬意を表したいと思います。

■取組状況から、農大の評価が記号で記入されていますが、CやDとなる根拠を探ることは難しいと感じました。

■出雲農林高校と農大とは、今後も担い手育成という共通の使命を持ちながら連携していく必要性を強く感じています。

■農大での学習内容や実習内容、学校生活などを含めたことについて、学生さんと本校生徒が意見交換等を実施することは有意義なことではないかと感じています。

■コロナの状況から、農林大学校企画運営会議を開催されませんでした。対面で意見交換をさせていただきたく思いました。

■大学校の「教育目的」「基本方針」「重点目標」等非常に良い評価シートを作ってもらいました。これをもとに県農林水産部一丸となって取り組んでほしい。

■県養護学校（高等部）の生徒の募集・訪問をされても良いと思います。